

編集後記

▼お待たせしました「現代宗教研究」第五十号をお届けします。

▼第四十八回中央教化研究会議では、平成二十七年が戦後七十年の節目をむかえる事から、戦後七十年をテーマとしました。このテーマで中央教研を開催するにあたっては、実に様々な切り口から行う事が可能かと思いますが、現宗研としましては、日蓮宗に深い縁を持ち、戦中においては言論人として、戦後には政治家として活躍された、石橋湛山を取り上げました。石橋首相誕生の前後は、宗内でも勢力的に講演されていた事は、『石橋湛山日記』から伺い知る事が出来ますが、現在宗内に於いてあまり周知されていないように見受けられます。石橋湛山の思想行動の源泉は、日蓮聖人の教えに多く影響を受けているであろう事は、随所に見いだす事が出来ると思われれます。その湛山の思想行動を通して戦後七十年を考え、未来を考える機会とし、併せて宗内における湛山理解も深めて頂ければと思います。是非ご一読下さい。

▼研究ノートは、研究員各師が例会にて発表された研究

成果を収録しています。

▼研究・調査プロジェクト報告は、科学と宗教チーム及び社会と宗教チームよりの報告を収録しました。